

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 佐那河内小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒771-4101
徳島県名東郡佐那河内村下字中川原30

E-mail : sasyou@tgn.tcn.ne.jp

Website : http://e-school-tokushima.or.jp/sanagochi/html/htdocs

児童生徒数：男子 61名 女子 36名 合計 97名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地域ふるさとに誇りをもつ）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○はじめに

本校では、子どもたちが郷土佐那河内に誇りをもち、次代の担い手になれるように自然豊かな地域の特性を生かし、学校教育に協力的な人々と連携した取り組みを継続的に行っている。

○各学年の取り組み

《1年生》

生活科の「秋をさがそう」の学習において、秋の校庭や野原で、身近な動植物の様子を観察したり、行き帰りに出会う人とかかわったり、秋の草花や樹木、虫などを採集したり集めた自然物を使って、工夫して遊んだ。

そして、学習のまとめとして、2年生と協力して「秋のフェスティバル」を開催し、自分たちが工夫した遊びを保育所の幼児に楽しんでもらった。

《2年生》

学校やその周辺で生き物を探し採集し、育ててみた。学習には地域のネイチャーセンターからゲストティーチャーを招いて、生き物の名前や特徴、世話の仕方について説明してもらった。学習したことやわかったことを「生き物発表会」で紹介し合った。

《3年生》

理科の「風やゴムで動かそう」の学習から風やゴムの働きについて学習を深めた後、村内一周探検で大川原ウインドファームを見学する。風力発電や環境保全について考える学習を展開した。

《4年生》

社会科で佐那河内のごみ処理の仕方について学習した。ごみ集積場を見学したり役場の担当の方のお話を聞いたりして、佐那河内村がどのような工夫や努力をしているかを学習した。ごみを34種類に分別していること、ごみの少ない自治体で全国8位であることを知り、村の一員である自分たちもできることを考え、実行しようとする意欲を高めた。

《5年生》

地域の方の協力を得て稲作を体験。5月に田植え、9月に手作業での稲刈り、はで干しを行う。その後、もち米を使って、ぼた餅作りを行った。また、3学期には郷土料理教室で佐那河内の「いりめし」づくりも体験した。学習したことをNHK放送体験学習で制作したニュース番組の中で紹介した。

《6年生》

小学校の地域学習のまとめとして「佐那河内のよさを発信しよう」というテーマで学習を進めた。果樹園オーナーの方やネイチャーセンターの方のお話を

聞きながら役場の方の協力も得て、佐那河内の良さを伝えるパンフレットを制作。修学旅行先の関西の観光地において、訪れているお客さんにパンフレットと佐那河内特産のすだちを配布した。

○おわりに

このように、本校では、総合的な学習の時間はもとより、各教科や学校行事等全ての教育活動において、可能な限り地域の「ひと」「もの」「こと」にかかわりながら学習を進めている。

今後も、恵まれた教育環境を生かし、様々な体験を通して得られる「かかわり」を大切にしながら、ESDの能力や態度を養いたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）